

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人 グループホームなごみ		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホームなごみ		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字山田2734番地		
自己評価作成日	平成25年 1月18日	評価結果市町村受理日	平成25年 7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>モットーである「ゆっくり一緒に楽しく」を全員で実行し、寄り添った介護を行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・法人代表の急逝による局面を、新たに迎えられた代表と職員が、思いを一つにして対処し、全員で事業所の運営に携わっている。 ・事業所設立からのボランティアや地域交流が継続され、新たに小学校や同業者との交流にも取り組み、事業所運営や職員の質の向上に繋げている。 ・運営推進会議が活かされた事業所運営が行われている。 ・利用者一人ひとりに寄り添うケアを主軸に、利用者職員がゆったりと過ごす時間を大切にしている。その中から課題を見つけ出し、より良い個別支援についての学びの意識を持っている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し全員が確認し地域との関連性を重視した理念を大切にしている。朝礼時、理念を理解するよう、また具体的ケアについて確認し合っている。	事業所開設時、設立者が、「地域の中で、個性を大切に暮らしていく」を事業所の目標として理念を作成し、全職員で共有し、日々の利用者支援に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達から畑の作物の差し入れや、区民祭・小学校の運動会等と積極的に出掛けている。	設立10年間で築かれた地域や様々なボランティアとの交流が継続され、地域の人が散歩途中で立ち寄り、立ち話をする関係もある。地域の運動会の住民参加競技の参加賞の球根を敷地内に植え、美しい花を咲かせ皆の目を楽しませている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成講座の参加を活かし、地域に働きかけるよう計画中です。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会で話し合われたことが、一つずつではあるが、実現されている。屋街灯など	会議は、職員2名が担当して開催し、議事録は、詳細に記録され管理者に報告している。夜間の照明の必要性が話し合われ、委員を中心に様々な機関に働きかけ、地域住民の協力を得て、敷地内に外灯が設置されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時に、詳細に説明し行政との連絡を密にしている。また、不明なことが生じたときには行政に相談し、担当者とは常に連絡を取り合っている。	今年度、法人代表の交替や事業所運営について、話し合いを多く持ち、役場担当者との連携により、様々な課題の解決が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束についてミーティング時に話し合い職員共有認識を図っている。日中は、玄関の鍵はせず、好きな時に外に出掛けられるようにしている。	契約時に、家族とリスクについて話し合わせ、利用者の特徴を理解した職員の声掛けや見守りにより、抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の身体に現れた内出血等はポディチェックノートに記載し、原因・再発防止に努めている。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、それぞれ意識としてはあるが職場としては特に行ってない。ミーティング時に折りをみて実施し活用できるようにしたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け丁寧に説明している。特に利用料・看取り・リスク・重度化について事業所の取り組みを説明し、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの訴えに対しては耳を傾け、要望に応えられるよう努力しているが、ご家族との意思疎通がやや不十分な面がある。	年2回利用者の状況を知らせるコメントを記載した広報誌を家族に送付している。定期受診や衣替えなどは、家族に対応してもらう事で、意見や要望を聞く機会に繋げている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が5月に変わりミーティング時などで運営方針を説明し、職員の意見を聞き反映させている。	月に一度開かれる職員会議では、利用者支援や事業所運営についての話し合いや、意見交換が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い、休日・特別休暇・労働時間などを改め、環境作りを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT体制により、ケアの技術の向上に努め、職員の資格取得を支援し、研修会への参加を支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、同業者と交流する機会がないので、今後、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、ご本人が発した言葉の一つひとつに耳を傾け、不安解決の為に何が出来るか職員で話し合いながら介護を支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安に思っていることにも耳を傾け、どのようにしたら良いか職員間で話し合い、ご家族へも提案しながら支援を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご本人、ご家族と面談し要望を聞き、サービス内容にご理解していただけたのであれば、サービスを提供させていただく。また、要望に添わないのであれば、他施設と連携を図り、調整を行う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支え合う関係、寄り添う介護を行うなかで個々のニーズに対処し、共に励まし合い関係を築いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族とゆっくりとお話できる環境を整え、ご家族が疎遠になっている方には、お手紙にて近況報告等を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの人との関係が途切れないよう、墓参りや椎茸とり区民祭への参加、親戚や友人宅訪問など個別支援を行っている。	利用者の出身地域の行事に参加したり、自宅に帰るなど、家族と共に過ごしている。事業所での生活歴の長い利用者は、職員や近隣住民と、地域での新たな馴染みの関係が作られている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話は以前に比べ増えているように見受けられる。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者とは、断ち切らない関係づくりが出来ており、相談等受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めており、大切にしている。	今年度、様式を作成し、利用者の担当職員が聞き取り、項目ごとに記入が行われている。項目外の把握された情報は、別紙や職員連絡ノートに記載し、共有されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション等、9名同じ時間に同じことをすることが多かったが、個別の過ごし方が増えつつある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごした内容と心身状態を、申し送りと経過記録等を用いて職員全体が把握出来るよう努めている。その中で、特に利用者が生き生きとしたこと、昔からの趣味なども記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のミーティングにてモニタリングを行い、ご本人やご家族の意見について話し合い、よりよい介護につながるよう介護計画を作成している。	職員からの情報を基に、計画作成担当者が介護計画を作成し、毎月の職員ミーティングで利用者の状況を中心にモニタリングが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、細かく記録をすることで、ご本人が必要としている介護とは何か、気づくことが出来るよう申し送りもこまめに行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための多機能化、ご本人や家族のニーズには十分対応している。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望や体調に応じて、訪問美容院や馴染みの美容室へ出掛けている。また定期的な地域ボランティアの慰問・おたから文庫(小学生)の慰問がある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師は、常時いない為、職員がかかりつけ医や家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者個々の入居前からの掛かりつけ医の継続受診が行われている。定期受診は、家族対応で行われ、緊急時は、職員対応での受診支援が行われている。受診時の情報の共有も行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護について疑問に思ったことなどを看護師へ相談し、連携を図りながら解決につとめている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換が主であるが、関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態変化が起きた際は、その都度ご家族と話し合いを持ち、事業所でする事を説明し方針を共有している。	契約時に、重度化や終末期のあり方について事業所での指針の説明をしており、入居と同時に、老人福祉施設の入居申し込み手続きも行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・事故発生時に備えて普通救命講習へ参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご利用者・ご家族・地域・消防の方々に協力して頂き、避難訓練を実施している。月1回施設内訓練も実施している。	年2回の避難訓練には、地域や家族からの参加がある。今年度の豪雨災害で河川が増水した時、事業所に近くの老人保健施設からの協力の声掛けがあり、今後も、災害時の協力関係が得られている。	

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で尊厳のあるケアを目指している。ご利用者を不快に思わせることがないように声掛け、接し方には留意している。	利用者の日常の行動には、全て目的があるという認識を持ち、職員全員が否定的な言葉や対応をすることのない取り組みを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定していただくよう心がけている。また、表情や反応をみながら対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせるよう努めているが、満足いくものではない。一日の過ごし方を柔軟に変えていけるよう努める。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には、お化粧品をして頂いている。お出掛け時には、普段よりおしゃれをされる。汚染した衣類を着用していないか留意しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、芋の皮むきや漬物を漬けたり、茶碗洗い等している。また、旬の食材や好みをお聞きし調理している。	昼、夕食は調理専従職員により、事業所で採れた野菜や差し入れの旬の食材を取り込んだ手作りの食事が作られている。車椅子の利用者も、食卓の椅子に移乗し、皆で食卓を囲み楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の方には、バランス良く食べて頂くために少しづつお皿に盛りつけている。昔から梅干しを毎日食べていた方には、梅干しをお出ししている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い一人ひとりの力に応じた歯磨きのお手伝いをしている。週1回、義歯を入れ歯洗浄剤にて洗浄消毒している。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツにパッドを使用し、できるだけトイレで排泄できるよう排泄チェック表を使用し、排尿の間隔が普段よりあいている場合は、自尊心を傷つけないよう声掛けを行っている。	入居前にリハビリパンツなどの利用を習慣としていた利用者が、布パンツとパッドの利用につながったなどの改善例がある。日中は利用者全員が布パンツを利用し、トイレでの排泄をすることで自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、栄養バランスの取れたものが提供されており、便秘気味の方には、リハビリや腹部マッサージ、水分を多めにすすめる等を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日が確定されているが、希望者がいる場合はその日の入浴も行っている。また体調に合わせて、清拭・シャワー浴など随時対応している。	週2回の入浴支援が行われている。入浴を嫌がる利用者にも無理強いすることなく、声掛けの工夫でゆったりと湯船につかることができ、入浴後に「気持ち良かった」の言葉が聞かれるなど、心地良い入浴の支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望と声掛けにていつでも休まれるようにしている。以前、家で使われていた家具や写真等を部屋に置き、少しでも落ち着いた居室環境を作れるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方された場合には、副作用や留意点について調べ情報を共有している。薬ノートや服薬チェック表を使用し、確実な服薬に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	金魚の餌やりやカラオケ等、一人ひとりの得意なこと好きなことに着目し、生き生きと過ごして頂けるような支援を目指している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭先の陽だまりで日光浴や散歩を楽しんでいる。ご本人の希望を把握し、可能な限り出掛けるようにしている。	日常的に自由に屋外に出ることのできる見守り支援を行っている。利用者の発言から希望を汲み取り、個別の外出支援に繋げたり、福祉バスを利用して、職員と利用者全員での外出が行われている。	

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいをお預かりし、事業所が管理している。外出時は、おこづかいを渡しご自分で払って頂けるよう工夫している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。また、お礼の電話はご本人が必ずかけるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を植えたり、季節を感じられるよう毎月のカレンダー作りを行うなどして、飾り付けを行い、居心地良く過ごせる工夫を行っている。	掃除専従の職員が在席し、共有空間や居室の清掃や片付けが行われるなど、清潔に保たれている。食堂、ソファセット、窓辺に置かれたソファと、利用者が思い思いに過ごせる共有空間づくりが行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にソファを設置し気の合ったご利用者同士で過ごせるよう工夫しているが、共有空間の中での区切りがない。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人からの要望が少ないのが現状であるが、出来るだけ使い慣れた家具を持ち込んでいただき家庭的な雰囲気でも過ごせるよう心がけている。	居室は、全室掃出しの窓で、日常的に季節や外気、屋外の様子を見て、感じることで居る居室となっている。利用者のベッド柵は、職員手作りのベッド柵カバーで保護され、温かみのある仕様となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのための空間としては、テーブルの高さがあわなかったりと不便もあるが、工夫することで自立した生活が送れるよう支援している。		